

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況		
				自己評価								R 1	R 2	R 3
1 他分野・他機関連携体制の整備	1	福祉総合相談支援体制の整備	福祉総務課	福祉総合相談窓口の設置	目標	実施方法の検討	担当課協議	予算の確保	設置	実施	—	令和4年度の新庁舎供用開始時における福祉総合相談窓口体制について、従事者の予算要求及び方向性の策定に向け、関係各課との検討会議を行った。 ライフライン事業者（九電）を交え、重層的支援体制整備事業の中核となる関係課との協議を行った。 県内10市で構成する十市福祉事務所長会議において、重層的支援体制整備事業について情報交換を行った。 令和4年度については支援体制整備事業への準備期間と位置づけることとし、相談窓口の従事者として1名の予算を確保した。 ライフライン事業者（九電）との協力体制を構築することができた。	4.0	①総合相談窓口のあり方として、国が示す重層的支援体制整備事業に取り組み必要があるか、引き続き検討する必要がある。 福祉総合相談支援包括化推進員について、直接雇用が事業委託を行うか検討が必要である。 市役所新庁舎の供用開始に合わせ、引き続き検討を行っていく。 令和4年度については、福祉総合相談（福祉まるごと相談）の周知を行い、問題を抱えている世帯の掘り起こしを行っていく。 ②地域で気になる世帯などがあれば、福祉まるごと相談窓口や民生委員・福祉員まで情報提供をお願いしたい。
					実績	検討中	実施	確保済						
					達成度	75%	75%	75%						
				福祉相談支援包括化推進員の設置	目標	実施方法の検討	実施方法の検討	委託先の選定	設置	実施	—			
実績	検討中	検討中	検討中											
達成度	25%	25%	25%											
自己評価					3.0	3.5	4.0			点				
2 地域医療・福祉の充実	2	生活支援体制整備事業	地域包括支援課	地域協議体（地区）	目標値	27	27	27	27	27	協議体	地域協議体の開催支援や高齢者アンケート調査の結果から、地域ごとに取り組む内容を検討した。その成果として、介護予防のための教室や生活支援活動（有償ボランティア）に取り組む地域が出てきた。 100歳体操 生活支援活動（有償ボランティア） 6か所	4.0	①地域での支え合い活動が継続的・安定的に実施できるしくみづくり、高齢者の移動支援の検討・研究、コロナ禍での地域協議体の開催や支え合い活動の方法が課題である。今後の方針としては、地域での支え合い活動が継続的・安定的に実施できるよう運営に関する支援を検討していく。また、国や県、唐津市内の新型コロナウイルス感染状況を鑑み、事業実施は感染拡大防止策を講じて行う。 ②地域協議体の取り組みや活動を知ってもらい、可能な範囲で参加・協力をしてほしい。
					実績値	25	27	27						
					達成度	93%	100%	100%						
				生活支援コーディネーター	目標値	14	14	14	14	14	人			
					実績値	12	12	12						
					達成度	86%	86%	86%						
自己評価					3.0	4.0	4.0			点				
3 在宅医療・介護連携推進事業	3	在宅医療・介護連携推進事業	地域包括支援課	多職種研修会	目標	2	2	4	4	4	回	相談対応：「在宅医療・介護連携支援センター」 月平均6件 会議開催：在宅医療・介護協議会ワーキンググループ委員会12回、訪問看護部会6回、退院支援ルール会議2回 情報共有：退院支援ルールアンケート実施、退院調整もれ率の改善について関係者で検討した。 研修会の開催：多職種連携研修会（web）7回 参加者約435人 住民への普及啓発：いきかたノートの配布 ワーキンググループ委員会での取り組みを通して顔の見える関係づくり、ネットワークづくりが出来た。 いきかたノートの配布時や説明会を通して、在宅医療と介護連携について地域住民の理解を図った。 R3年度（R4年2月末）配布数522冊 （民生委員・福祉員等説明会8回開催、参加者173人）	5.0	完了（目標達成） ①コロナ禍の多職種研修会や地域住民への普及啓発の取り組み方法。 ・WEBや行政放送などを活用した研修、普及啓発 ・いきかたノートを活用した普及啓発 ②在宅医療・介護連携について関心を持ち、理解を深めてほしい。
					実績	3	1	7						
					達成度	150%	50%	175%						
				ワーキンググループ委員会	目標	—	—	12	12	12	回			
					実績	—	11	12						
					達成度	—	—	100%						
自己評価					4.0	4.0	5.0			点				

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況			
				自己評価								R 1	R 2	R 3	R 4
2 地域医療・福祉の充実	4	離島診療所の医師及び看護師確保	保健医療課	離島診療所の医師数 ⇒神集島1人 高島 1人 加唐島1人 馬渡島1人 小川島1人	目標値	5	5	5	5	5	人	高島診療所の常駐医師確保を引き続き行ったが、常駐医師確保に至らなかった。昨今の医師不足など、辺地、離島等における医師が困難な中、遠隔診療を始めとした新たな診療体制について協議を行った。	4.5	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと） 順調に進んでいる	
					実績値	4.8	4.7	4.7							①シフト制の医療体制に移行したため、今後どのような診療体制にするか協議が必要。 医師不足による医師確保が厳しい中、従前どおり医師確保をし医療体制を構築するか否かを含め、今後の離島の診療体制について抜本的な方針を見直す必要がある。
					達成度	96%	94%	94%							
				離島診療所の看護師数 ⇒神集島2人 高島 1人 加唐島1人 馬渡島2人 小川島1人	目標値	7	7	7	7	7					人
					実績値	7	7	7							
					達成度	100%	100%	100							
自己評価					4.5	4.5	4.5			点					
3 地域の見守り体制の充実	5	小地域福祉活動推進事業補助金	福祉総務課	福祉員設置数	目標	891	891	891	おおむね50世帯に1人	おおむね50世帯に1人	人	小地域における福祉のリーダーとして活動する福祉員の活動費に対し補助を実施した。また、福祉員の活動や必要性を周知するため、市報で活動内容を紹介するなど情報発信を行った。 新型コロナウイルス感染症防止の工夫を行いながらサロン活動や体操教室を実施するなど、コロナ禍の中で、引きこもりがちな高齢者や不安を抱える地域の方などに対し福祉員がサポートを行うことで住民相互の助け合い活動や交流事業の推進に繋がった。	4.0	順調に進んでいる ①未だ福祉員を配置出来ていない地域があるため、全域に最低1名は配置できるよう、福祉員の必要性等を周知していく必要がある。	
					実績	857	858	852							
					達成度	96%	96%	96%							
				自己評価					4.0	4.0					4.0
	6	民生委員費	福祉総務課	民生委員定数	目標	336	336	336	一斉改選	定数見直し検討	人	民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることもあり、委員の負担が増えている。それに伴い活動する際に個人に係る費用負担も増加していることもあった。そこで、令和2年度から活動費や協議会に対し市からの補助金を増額した。 新型コロナウイルス感染症防止の工夫を行いながら相談や研修会を実施するなど、コロナ禍の中でもできることを行うことで活動の推進に繋がった。	4.0	順調に進んでいる ①民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることから、委員に対し適切な情報提供を行うなど、活動を支援していく必要がある。 新型コロナウイルス感染症防止に配慮した民生委員活動を検討する。 市への問い合わせにおいて窓口を一本化し、その窓口において事案に応じた対応を速やかに確認することができる体制を整える。	
					実績	335	335	336							
					達成度	99%	99%	100%							
				研修会への参加	目標	4,032	4,032	4,032	4,032	4,032	人				
					実績	7,378	6,035	5,922							
					達成度	183%	150%	147%							
自己評価					4.0	4.0	4.0			点					

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 I	地域での包括的な支援のために
--------	----------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況		
				自己評価		R 1	R 2	R 3				R 4	R 5	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）
3 地域の見守り体制の充実	7	既存公共施設の地域の見守り拠点化の検討	福祉総務課 生涯学習文化財課	地域の見守り拠点の設置	目標	検証	130	145	145	145	箇所	市立公民館及び地区公民館において、地域住民の交流の場、見守りの場として、子ども食堂やいきいきサロン、100歳体操事業を展開・支援した。なお、市立公民館25館では、新型コロナウイルス感染防止のため、公民館を休館したり地域行事の中止があったが、感染対策を講じながら主催講座やサークル活動を行った。 地域住民に身近な公民館で、子ども食堂やいきいきサロン、100歳体操が開催されることで、地域住民の交流と見守り活動を実施することができた。 これまで開催されていなかった七山地区でも、子ども食堂が開催されるなど、支援体制が広がってきている。	4.0	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）
					実績	実施	141	143						順調に進んでいる
達成度	50%	108%	99%				①新型コロナウイルス感染対策を講じながら、講座や行事を実施・支援し、地域住民の交流の場としているが、見守り拠点としての意識付けが必要である。 ②地域行事へ積極的に参加する、または呼びかけを行うなど、住民同士の顔が見える関係づくりをお願いします。							
				自己評価	3.0	3.5	4.0			点				
	8	学校・家庭・地域社会の連携強化	学校教育課 学校支援課	外部人材の活用	目標	10,000	12,732	6,679			人	第一中学校校区の3校（第一中学校、長松小学校、大志小学校）において、コミュニティスクールが設置されており、中学校における面接指導や、小中学校における授業へのゲストティーチャーとしての活動を行った。また、各小中学校では、地域の方の協力を得て、農業体験や海洋学習を行ったり、地域の文化を学ぶ学習などを行った。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、活動を中止にしたり、人数を制限したりする活動等も多かった。 旧唐津市管内の学校では感染状況がなかなか落ち着かなかったが、旧町村管内においては感染の広がりが小さく、令和2年度よりは外部人材を招いての活動を実施することができた。	2.5	概ね順調だが、不十分な点が少しある
					実績	12,732	6,679	1,971						①年間を通じて、各学校の教育活動における、家庭・地域への情報発信、協働した活動を積極的に行っている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、外部人材の活用がここ2年で大幅に減少している。今後も感染状況を注視しながら、地域人材の活用を勧めたい。 コミュニティスクールに関しては、推進するのに人材確保等の課題がある。
達成度	127%	52%	30%											
				自己評価	3.0	3.0	2.5			点				

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
				目標	実績	達成度	掲載内容及び発行方法の検討	手段の検討	実施	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）					
4 情報提供の充実	9	唐津市保健福祉ガイドブック(仮称)の発行	福祉総務課	ガイドブックの発行	目標	掲載内容及び発行方法の検討			手段の検討	実施	—	令和2年度に実施した検証結果をもとに、「保健福祉のてびき」の発行方針案をまとめ、各課の意見を集約し、第3期唐津市地域福祉計画進捗管理庁内調整会議に諮った。 その結果、今後は唐津市くらしのガイドの掲載内容の充実を行うこととし、冊子形態以外の新しい情報提供手段として、問い合わせ対応窓口のAI活用などを検討していくこととし、保健福祉ガイドブックの改訂の取り止めを決定した。	5.0	順調に進んでいる	
					実績	検討中	検討中	方針決定						①AIを活用した相談システムの構築や唐津市公式LINEを活用したプッシュ配型の情報提供手段の検討を行い、冊子形態以外の新しい情報提供手段について検討を進める。	
					達成度	75%	75%	100%							
				自己評価	4.0	4.5	5.0			点					
5 相談支援体制の充実	10	各相談支援窓口職員向け研修の実施	保健医療課	職場外研修の受講	目標値	6	6	6	6	6	回	新任期保健師研修会4名・新任期保健師実地指導者研修会2名・九州ブロック保健師等研修会・地域保健福祉従事者研修会15名・日本公衆衛生看護学会3名が集合研修又はオンラインで受講することができた。また、職場内研修の機会として保健事業連絡会は9回実施できた。	4.0	順調に進んでいる	
					実績値	6	2	5						①相談業務は様々なケースがあり、経験年数が少ない職員の育成が課題である。 地区担当制及び業務担当制をとし、職員育成を推進していく。（共に訪問等の相談業務にあたることにより後輩職員が先輩職員から学ぶ場を作っていく）	
					達成度	100%	33%	83%							
				職場内研修(保健事業連絡会)の実施	目標値	12	12	12	12	12	回	研修を受けることにより、それぞれの年代で担っている保健師としての役割を学ぶことができ、また、専門的知識を学ぶことにより、相談従事専門職として力量形成を図ることができた。			
					実績値	11	10	9							
					達成度	92%	83%	75%							
			自己評価	4.0	3.0	4.0			点						
			子育て支援課	家庭児童相談員及び母子父子自立支援員に関する研修の受講	目標	4	4	4	4	4	回	家庭児童相談室では、6月及び12月に佐賀県・市家庭児童相談員連絡協議会、11月に児童虐待防止推進月間講演会、12月に学校等における児童虐待防止研修会の年間4回出席。 また、母子・父子自立支援員は、7月にDV被害者支援市町連携会議、9月にDV関係機関相談員向け研修、11月に佐賀県母子・父子自立支援員及び母子父子寡婦福祉資金貸付金担当者等研修会の年間3回出席。 相談援助技術について習得することができ、相談対応する際に実践できるようになった。	4.0	順調に進んでいる	
					実績	4	4	7						①相談員が不在の場合にも他の職員で対応できるよう、更なる職員の意識の醸成と育成が課題。 研修で得た知識を活かし、実際の現場での実践力を強化する。 計画的な研修受講の継続、受講後の他の職員への伝達講習、及び相談支援業務に関連性の深い市の事業について知識を深めることで、職場全体で更なるスキルアップを目指す。また、職歴の浅い職員には経験豊富な先輩職員が同行して訪問を行うなど、実際の現場で業務を進めながら実務を学ぶ場を設ける。	
					達成度	100%	100%	175%							
				自己評価	3.0	5.0	4.0			点					
			障がい者支援課	研修等への参加	目標	12	12	12	12	12	回	相談支援事業のスキル向上のための従事者研修企画・検討委員会に参加。相談支援従事者研修に向けた打合せに参加、研修会講師としても参加。支援学校の就学就労フォーラム、相談支援事務連絡協議会への参加。 佐賀県相談支援事業従事者初任者研修、現任研修、主任相談支援専門員研修などに参加し、県内の相談支援発展のための役割を担うことができた。また、市町における包括的な支援体制整備に関する研修会、相談支援事務連絡協議会への参加により相談員としての資質向上に努め、他機関との連携を図ることができた。	4.0	順調に進んでいる	
実績	10	11			13			障害者相談員の中心的な役割を担う相談員（スーパーバイザー）の育成。自主的に相談に来られない地域の障がい者の方々の把握。コロナ禍における今後の相談者との関わり方の検討。 主任相談支援専門員養成研修への積極的な参加。 地域の関係機関とできる範囲での連携を図り、相談支援センターから障がい者の相談支援に繋がる方法を検討する。							
達成度	83%	91%			108%										
自己評価	3.0	4.0		4.0			点								

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況			
				目標	実績	達成度	自己評価	自己評価	自己評価	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）				③その他			
5 相談支援体制の充実	10	各相談支援窓口職員向け研修の実施	高齢者支援課	研修受講回数	目標	-	5	3	3	3	-	認定調査員新任研修（佐賀県）を2人が受講した。例年実施されている認定調査員能力向上研修（厚労省）及び認定調査スキルアップ研修（民間）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、以前の研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深めた。各業務の専門性を高めることができ、利用者に寄り添った相談支援が可能となった。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある			
					実績	-	2	1							①専門的な相談支援を実施するため、経験年数が少ない職員の育成が課題である。今後は研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深める、職場全体のスキルアップを目指す。		
					達成度	-	40%	33%									
			自己評価		4.0	3.0	3.0			点							
			-	地域包括支援課	目標	-	-	-	-	-	-			各専門職が専門性を高めるため、国、県、関係団体等主催の研修（WEB研修を含む）を積極的に受講した。必要に応じて報告会や学習会を行う等課内で情報共有を行ったことで、各専門職のスキル向上につながった	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある	
					実績	-	-	-	-	-						①専門職の人材不足等により十分な相談支援体制ができていない。人材確保、人材育成、相談支援体制の検討。専門職の人材募集を引き続き行うとともに複数の職員で窓口相談対応ができるような課内の体制を検討する。	
	達成度	-			-	-	-	-									
	自己評価		3.0	3.0	3.0			点									
	-	生活保護課	目標	-	-	-	-	-	-	生活困窮者自立相談支援事業従事者研修などの研修を受講している。研修受講により相談員のスキルアップに繋がり、相談支援に対する意識の向上が図られたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、研修が中止になったりオンライン受講となるが多かったため、例年よりも受講回数が減少した。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある					
			実績	-	-	-	-	-				①生活困窮者に対応するため、各方面の機関と連携が必要であり、それに伴う知識が要求される。相談支援員各々の質の向上のためにも、積極的に研修等を受講することが理想であるが、新型コロナウイルス感染症の影響がある間は、研修会の開催自体が減少するため、受講機会が減少する。研修会へは可能な限り参加できる体制を構築する。生活自立支援センター内の情報共有を行い、相談支援員のスキル向上に務める。					
			達成度	-	-	-	-	-									
	自己評価		3.0	3.0	3.0			点									
11	民生委員・児童委員及び福祉員の研修活動への支援	福祉総務課	-	目標	-	-	-	-	-			-	唐津市民生・児童委員連絡協議会の活動の強化及び協議会の円滑な運営のため補助を実施し、新型コロナウイルス感染症拡大の中、できる範囲内で各地区協議会で研修会などを開催し、民生委員・児童委員の資質向上を図ることができた。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
				実績	-	-	-	-	-						①民生委員・児童委員と福祉員が連携した活動の支援を行うため、引き続き、市社協や地区社協と連携し支援を行いたい。		
				達成度	-	-	-	-	-								
自己評価		3.0	3.0	3.0			点										
12	福祉部門に配置する専門職の雇用	人事課	新規採用職員 専門職募集数	目標値	3	2	0	実情に応じて検討		-	福祉部門で主に相談支援業務に従事する専門職である社会福祉士については、全体の職員数に鑑み、令和3年度は当該職の募集を実施しなかった。（社会福祉士の職員数は令和4年4月1日現在で6名）今後も福祉部門における各担当課の現状を把握しながら、引き続き社会福祉士の配置の必要性を検討し、募集を行う。	3.0			概ね順調だが、不十分な点が少しある		
				実績値	2	1	0								①採用試験を実施する場合は、受験者数の確保が課題となる。 ※数値目標の指標については、募集数ではなく、必要な社会福祉士の人数とするなど、検討する必要がある。		
				達成度	66%	50%	-										
			自己評価		3.0	3.0	3.0			点							

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 II	利用しやすい福祉サービスの提供のために
---------	---------------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
													①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）	
6 権利擁護体制の整備	13	成年後見制度利用支援事業	障がい者支援課【障がい者】	申立件数	目標値	1	3	3	3	3	件	障がい者に関する関係機関からの相談を受け支援会議を開催し、市長申立て手続きを実施中。また、本人の資力等を考慮し後見人報酬の助成を行った。 成年後見等申立て件数 0件 報酬助成 3件	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある 障がい者支援課と地域包括支援課でそれぞれの窓口で相談を受けており、統一した相談機関がない。後見人の担い手の不足もあるため、中核機関の設置を令和4年度に行う予定。 中核機関の設置に向けた協議を継続して実施する。また、成年後見人の担い手不足の解消に向け、関係機関との連携を図る。
					実績値	4	1	0						
					達成度	100%	33%	0%						
				成年後見人報酬助成件数	目標値	3	4	2	2	2	件			
					実績値	1	3	3						
					達成度	33%	75%	150%						
	自己評価				3.0	3.0	3.0			点				
	13	成年後見制度利用支援事業	地域包括支援課【高齢者等】	申立件数	目標値	4	4	8	9	10	件	認知症高齢者等に対する成年後見、保佐、補助開始の審判について市長申立てを行った。後見人等への報酬の支払いに対する助成を行った。成年後見制度利用促進のための中核機関の設置に向けた検討会を開催した。 【成果】 ・認知症高齢者等に対する権利擁護支援を図ることができた。 ・報酬助成により、安定した制度利用につなげることができた。 ・成年後見制度利用促進のための中核機関の設置に向けた検討会の開催により、多角的な視点から助言を受け、方向性を決めることができた。	5.0	完了（目標達成） ①高齢化が進み、成年後見制度の需要が増加することから、地域における権利擁護支援ネットワークの構築や成年後見制度利用促進のための中核機関の設置が必要。そのため、地域における権利擁護支援ネットワークの構築や成年後見制度利用促進のための中核機関の設置に向け、関係する機関・団体等と協議を重ねながら進めていく。 ②制度自体を知ってもらった後に、地域での見守りや声掛けを行っていただき、適切な機関へ繋いでほしい。
					実績値	4	8	5						
					達成度	100%	200%	63%						
				成年後見人報酬助成件数	目標値	4	4	6	7	8	件			
					実績値	7	6	10						
達成度					175%	150%	167%							
自己評価				4.0	5.0	5.0			点					
7 災害・緊急時の支援体制の充実	14	避難行動要支援者名簿の活用と啓発	福祉総務課 危機管理防災課	平時からの情報提供同意者数	目標	4,000	4,250	4,500	4,750	5,000	人	「地域における避難支援の手引き」を策定し、地域支援者（民生委員・児童委員、行政連絡員）に配布するとともに、ホームページで公開した。また、未同意者に対し、個別計画の地域支援者に対する情報提供及び個別計画策定について、勧奨の通知を行った。 地域の防災講話や介護支援専門員研修会（R3.10.22）で災害時の避難行動要支援者等の支援について講話等を行った。 民生・児童委員や介護専門員を対象に、個別避難計画作成の現状や課題について説明を行うなど、避難行動要支援者それぞれが必要とする支援や具体的な避難行動をあらかじめ整理・準備しておくことの重要性についての理解促進に繋げることができた。	4.0	順調に進んでいる ①災害時における避難行動要支援者を含む要配慮者への具体的な行動計画等を策定する必要がある。引き続き、防災部門と福祉部門が連携を行い、有効な避難行動要支援者の支援体制づくりに取り組む。 ②避難行動要支援者制度の理解を深めるとともに、地域における災害時の課題を整理、対応に向けて話し合いを進めていただきたい。
					実績	3,502	3,391	3,673						
					達成度	87%	80%	82%						
				自主防災組織設置数	目標	137	73	76	79	82	組織			
					実績	71	75	76						
					達成度	52%	103%	100						
	自己評価				2.5	3.0	3.0			点				
	15	自主防災組織の設置促進	危機管理防災課	自主防災組織設置数	目標	137	73	76	79	82	組織	○自主防災組織設置促進及び地域防災力向上に係る防災講話を行った。 ○自主防災組織など、地域住民が実施・参加する防災訓練の支援を行った（R3.11.21相知地区、R3.12.3作礼荘、R3.12.4呼子地区）。 ○認定自主防災会意見交換会（R3.5.29）や地域防災リーダーフォローアップ研修（R4.3.26）を実施した。 ○防災講話 実施回数・・・29回 ○防災訓練 支援回数・・・3回 ○研修会等 実施回数・・・2回	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①地域をまとめるリーダーの不在や役員のなり手がいないなどの地域特有の事情により、自主防災組織の新規設立数の伸びは鈍化傾向にある。防災講話などで、設立の機運を醸成するための取り組みを地道に進める。また、今後も意見交換会や地域防災リーダーフォローアップ研修の実施により、市民の防災意識向上の波及を図る。 ②地域の災害時避難行動要支援者や要配慮者のことを把握され、万が一の場合に地域でどのように助け合うべきか理解を深めていただきたい。
					実績	71	75	76						
					達成度	52%	103%	100						
				自己評価	目標	137	73	76	79	82	組織			
					実績	71	75	76						
達成度					52%	103%	100							
自己評価				2.5	3.0	3.0			点					

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 Ⅲ	福祉サービスの向上のために
--------	---------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
				①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）										
8 福祉サービスの質と量の充実	16	福祉サービス苦情解決制度	福祉総務課	—	目標	—	—	—	—	—	—	施設ごとに苦情解決責任者、担当者を配置したことにより、社会福祉施設の苦情解決に一早く対応できるよう、体制整備が出来た。また、苦情解決責任者および担当者を中心に普段から利用者の声に耳を傾けるなど、福祉サービスの充実・信頼性の確保に努めた結果、令和3年度の苦情報告件数は0件であった。	4.0	順調に進んでいる ①苦情につながる前の環境づくりをさらに強化する必要があるため、引き続き、各施設から定期的にヒアリング等を行い、ニーズ等の把握に努める。	
					実績	—	—	—	—						
					達成度	—	—	—	—						
				自己評価	4.0	4.0	4.0	—	点						
9 新たな福祉ニーズへの対応	17	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画	保健医療課	健康増進計画及び食育計画策定（統合で策定）	目標値	進捗管理	進捗管理	実態調査	最終評価	策定	—	コロナ感染予防のため健康づくり推進協議会並びに食育推進会議等は書面開催とし、事業関係者などの意見を聴取することができた。	4.0	順調に進んでいる ①健康増進計画、食育計画を統合し、令和5年度に策定予定。	
					実績値	実施	実施	実施	—						
					達成度	75%	50%	75%	—						
				自己評価	4.0	3.0	4.0	—	点						
			子育て支援課	第三期子ども子育て支援事業計画（R6策定予定）	目標値	第2期策定	見直しの審議	見直しの審議	見直しの審議	実態調査	—	新型コロナウイルスの影響及び喫緊を要す審議事項がなかったことにより、3年度中に子ども子育て会議は開催しなかった。 令和3年度事業の報告については、令和4年4月以降に書面による報告及び意見聴取を予定。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①急速な少子化の進行、児童虐待件数の増加、子どもの貧困問題、障がいのある子どもや新しい生活様式の影響など、事業の見込み値と実情が大きく乖離しないように、子ども子育て家庭を取り巻く環境の変化を重視して、対応していく必要がある。 令和4年度：第二期計画（R2～6）中間見直し検討 令和5年度：子育て支援ニーズ調査 令和6年度：次期計画（第三期）策定	
					実績値	策定済	見直しの審議	見直しの審議	—						
					達成度	100%	75%	50%	—						
				自己評価	4.0	4.0	3.0	—	点						
			障がい者支援課	からつ自立支援プラン策定（唐津市障がい福祉計画・唐津市障がい児福祉計画）策定	目標値	—	策定	検証	検証	策定	—	令和3年度において、個別計画策定（見直し）は行っていない。	4.0	検証を実施した。 ①新型コロナウイルスなどの感染症に関する情勢を踏まえつつ、当事者の意見、事業関係者等の意見など広く意見を聴取する必要がある。 令和5年度、8年度からつ自立支援プラン策定予定（3年ごと）、令和9年度第3次唐津市障がい者基本計画、策定予定（10年ごと）	
					実績値	—	策定	検証	—						
					達成度	—	100%	100%	—						
				自己評価	—	4.0	4.0	—	点						
高齢者支援課 地域包括支援課	高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定	目標値	調査	策定	検証	調査	策定	—	介護保険運営協議会を開催し、第8期介護保険事業計画の進捗管理及び検証を実施するもの。令和3年度前期（9月）は新型コロナウイルス感染防止のため中止となったが、後期（3月）は開催し、被保険者代表者枠として7名（全17名中7名＝約41%）を委員として構成し、介護保険制度におけるサービス利用者（当事者）等の意見が反映されるよう図った。 その結果、介護保険運営協議会の開催をととして、当事者の参画及び意見反映の機会を創出することができた。	4.0	順調に進んでいる ①被保険者代表者枠の委員は、普段より介護保険制度に触れる機会が少なく、制度の基礎知識が乏しい方もおられるため、意見を発表しづらい環境であるという意見もあった。 次期計画編成における策定委員会においては、少数単位での作業部会等を開催するなどして、制度知識の習得及び意見を出しやすい環境整備に努めたい。				
		実績値	調査済	策定済	検証済	—									
		達成度	100%	100%	100%	—									
	自己評価	4.0	4.0	4.0	—	点									

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 Ⅲ	福祉サービスの向上のために
--------	---------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等					単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況		
				R 1	R 2	R 3	R 4	R 5				①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）		
9 新たな福祉ニーズへの対応	18	住宅改修費の助成	障がい者支援課 【障がい者】	給付件数	目標	5	5	5	5	5	件	助成回数に関して、今年度は県外他市の状況を把握するため、要綱の調査を実施した。 また、身体障害者手帳の新規又は再交付時、要件対象者へ制度概要を引き続き説明している。 障害者住宅改修費補助（新潟県長岡市独自事業）で、対象工事内容、補助金額を拡大している自治体を1件確認したが、日常生活用具の住宅改修において、助成回数を2回以上に増やしている自治体は、今年度の調査では確認できず、制度上難しいことがわかった。相談件数は増加傾向にあるが、住宅改修申請件数増加につながる周知方法をとる必要がある。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①対象者自身で調べられた場合、要綱などを参照すると住宅改修費という種目ではあるが「居宅生活動作補助用具」と、何の工事ができるか伝わりにくいことも目標件数を達成できない要因の一つと考える。 ニーズや工事の発注の方法も多様化している中、工事内容を把握しておく必要のため、類似事業をおこなっている高齢者支援課とも連携を取りながら、当市において過去の住宅改修支給決定の内容を研究し、分類分けを行う。将来的にこの資料を活用し、申請者や関係機関が、より理解しやすい制度の案内に繋げていく。
					実績	4	3	3						
					達成度	80%	60%	60%						
			自己評価	3.0	3.0	3.0			点					
				高齢者支援課 【高齢者】	給付件数	目標	336	336	336	336	336	件	5.0	完了（目標達成） ①内容の審査時に、住宅改修として適当と認められる工事の範囲や、工事の適正価格の判断について、専門知識が必要とされる。審査の公平性に努めたい。 住宅改修費助成（介護保険）の制度（転居した場合や要介護度が3段階以上上がった場合は、支給限度額がリセットされることなど）について周知を行う。
	実績	334	335			340								
達成度	99%	100%	100%											
自己評価	4.0	5.0	5.0			点								
	19	高齢者住宅改修支援事業	高齢者支援課	助成件数	目標値	48	48	48	48	48	件	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①利用される方の状況で件数が変動するため、件数のみをもって一概に評価はできないが、引き続き住宅改修が利用しやすくなるよう介護支援専門員への制度理解と協力を求めている。	
実績値					25	21	20							
達成度					52%	44%	42%							
自己評価			3.0	3.0	3.0			点						

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 IV	参加しやすくするために
---------	-------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
				目標値	実績値	達成度	自己評価	点	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）	概ね順調だが、不十分な点が少しある					
11 地域活動の担い手の確保と育成	20	地域コミュニティ組織等の活動への支援	国際交流・地域づくり課	NPO法人登録数	目標値	42	43	44	45	46	団体	NPO法人の設立支援や、地域コミュニティ組織である地域まちづくり会議が行う、地域の課題解決に向けた取り組みを支援した。 2つのNPO法人の設立を支援し、21地区の地域まちづくり会議の活動を支援した。	3.5	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）	
	実績値	43	47	49					点	概ね順調だが、不十分な点が少しある					
達成度	102%	109%	111%					①NPO法人の設立については、順調に推移している。地域まちづくり会議については、補助金以外の財源の確保と継続的な運営体制の構築が課題である。また、地域まちづくり会議に成熟度のバラつきが見られ、効果的な地域活動となっているか疑義のあるものが見受けられる。その他、地域によっては、防災や福祉の分野においても同様の協議体があり、それぞれの活動に参画することが、市民の負担となっているという意見もある。 ②地域づくりを推進するためには、核となる人材の育成が必要不可欠であることを念頭に事業に取り組んでいただきたい。							
				自己評価		3.0	3.5	3.5			点				
	21	がんばる地域応援補助金事業（地域の市民活動の育成を図るソフト事業）	国際交流・地域づくり課	新規助成事業件数	目標	20	20	20	20	20	件	市民の知恵や発想を最大限に引き出し、活発なコミュニケーションを通じて、地域が自らの選択と責任で個性と魅力あるまちづくりを推進する取組みに対し、補助金を支出した。 ソフト事業16件（うち新規3件）、整備事業8件に対し補助金を支出し、市民のつながりを強固にし快適で暮らしやすいまちづくりの実現に寄与した。	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある	
	実績	14	13	11					点	①市他の補助事業と競合する部分があるため、市他の事業と整理・統合を進めていく。 継続の可否について原因を分析するため、補助期間を終えた団体に対する追跡調査の実施を検討する。 事業が継続して実施できるよう、団体の自立化を促進するため補助率の調整を行う。 ②コロナ禍により疲弊した地域コミュニティの活性化を図るため、積極的に事業を実施していただきたい。					
達成度	70%	65%	55%												
				自己評価		3.0	3.0	3.0			点				

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 IV	参加しやすくするために
---------	-------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況		
				目標値	実績値									①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）	進捗状況	
12 福祉ボランティアの推進	22	唐津市ボランティアセンターの運営支援	福祉総務課	ボランティア講座数	目標値	6	73	47	67	67	講座	市民を対象とするボランティア養成講座や学校を対象とするボランティア体験講座等の活動、民間ボランティア団体への活動支援等に対し、補助支援を行なった。 ボランティア活動を通じて様々な方との交流の場が増えたことで、生きがいづくりや健康増進に繋がっている。また、養成講座等により地域を支える担い手づくりが出来ている。R3年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常の講座等の開催は行えなかったが、学校での福祉体験講座（実績40回 2,623人参加）は、予定通り実施し、ボランティアへの関心や意識を継続させることができたものと考える。	3.0	①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと） 概ね順調だが、不十分な点が少しある ①コロナ禍において、ボランティア活動や講座等の開催が制限を受けた中で、学校と連携した講座を実施されたことは評価できる。ただし、災害時のボランティア体制について、実施団体との協定が未締結など課題があり3.0とした。		
					実績値	10	68	40								
					達成度	167%	93%	85%								
				ボランティア講座への参加者数	目標	180	2,680	2,700	2,700	2,700	人					
					実績	155	2,143	2,623								
					達成度	86%	80%	97%								
				ボランティア連絡協議会会員数	目標	4,200	4,200	4,230	4,230	4,230	人					
					実績	4,200	3,764	4,081								
					達成度	100%	90%	96%								
				自己評価				4.0	3.0	3.0						
	23	市民活動支援センター「ステップ」の運営支援	高齢者支援課	相談件数	目標	100	100	110	110	110	件	共生社会構築の拠点の「総合窓口」として、情報提供や相談など市民の出会いの場を提供した。 団塊の世代が中心となるシニア世代をはじめとした一般市民を対象に、持ち前の技能を活かした活動やボランティア活動へのマッチング、登録した人材情報の活用等を行うことで、市民の新たな活動の場を広げることができた。	2.0	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い ①事業内容の周知が不足していることから、市報などに利用者の活動状況やコメントを掲載するなど、周知方法を検討する。		
					実績	100	26	48								
					達成度	100%	26%	43%								
				ボランティア派遣件数	目標値	70	70	75	75	75	件					
実績値					60	16	24									
達成度					86%	23	32%									
自己評価				4.5	2.0	2.0			点							

様式 2

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価総括シート（令和3年度）

基本目標 IV	参加しやすくするために
---------	-------------

施策の方向	No.	事業名	担当課	数値目標等		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	単位	具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか） 展開に対してどのような成果があったか	自己評価	進捗状況	
				目標	実績	達成度	目標値	実績値	達成度	自己評価				①課題や今後の方針、②協働事項（その解決のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）	
12 福祉ボランティアの推進	24	介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進	地域包括支援課	ボランティア登録者数	目標	200	210	210	210	210	人	ボランティア活動を行う者として市に登録を行った唐津市に住む65歳以上の高齢者（要支援または要介護認定者を除く）が、市が指定する介護施設などで行うレクリエーションやお茶出しなどのボランティア活動を推進した。 活動に対してはポイントが付き、ポイントに応じて現金に換金して交付金として市が交付した。 結果として、高齢者の社会参加や地域貢献の機会を広めただけでなく、ボランティア活動者の介護予防につながった。 R3年度ボランティア実績（参加者見込み）118人	3.0	概ね順調だが、不十分な点が少しある ①制度の認知度を高めるための啓発やボランティア活動場所の拡大、ボランティア活動登録者のサポートや研修などによる人材育成が必要。そのため、ボランティア活動登録者とボランティア活動受け入れ事業所を拡大させ、介護予防を推進していく。また、介護施設だけではなく身近な高齢者の通いの場（サロン等）の指定を増やし、地域での介護支援ボランティア実施を検討していく。 ②誰でも気軽に参加できるボランティア制度を地域の中でも広げてもらいたい。	
					実績	258	142	118							
					達成度	129%	58%	56%							
				ボランティア活動指定施設数	目標値	120	130	130	130	130	施設				
実績値	128	130	131												
達成度	107%	100%	101%												
自己評価	4.0	3.0	3.0			点									
13 地域福祉に対する意識の啓発	25	地域福祉の啓発	福祉総務課	—	目標値	—	—	—	—	—	—	市ホームページ上で「地域共生社会」の実現について、その求められる背景や市の取り組みについて啓発するページを引き続き掲載した。 令和3年度において、市内にフードバンク活動の拠点や不用品リサイクルの拠点が設置されるなど、「地域共生社会」の機運が高まってきていると考えられる。	4.0	順調に進んでいる ①ホームページ上での情報を充実させる。市報などほかの媒体での意識啓発について検討を行う。 ②地域共生社会やフードバンク活動の周知をお願いしたい。	
					実績値	—	—	—	—	—					
					達成度	—	—	—	—	—					
				自己評価	4.0	3.5	4.0			点					
26	認知症サポーター養成講座の開催	地域包括支援課	講座受講者数	目標	570	626	200	200	200	人	認知症に関する正しい知識の普及、対応の仕方について認知症サポーター養成講座を開催した。（16回、初回受講者361人）若年層への講座にも取り組んだ。（9回、受講者276人）講座を受講した人にボランティアの意向を聞き登録を行った。高齢者見守りネットワーク事業者に講座を実施した。 受講後のアンケート結果によると、「症状を理解できた」と回答した者は95%、「対応を学ぶことができた」と回答した者は96%に上り、受講者の大半の方が認知症に対する理解を深めることができた。R4年3月末時点のサポーター総数の見込み6,624人	4.0	順調に進んでいる ①感染症対策を講じつつ、少人数でも講座を開催し、認知症サポーター養成講座を受講後に地域で活動できる場を作る必要がある。高齢者見守り事業所に対し周知をおこない、講座を開催する。今後も若年層向けの講座の開催を重点的に行う。講座を受講した人にボランティア等の意思の有無を確認し、地域での活動へつなげる。 ②養成講座を受講した方がさらに知り合い等に講座を広めてもらうことで受講者をさらに増やしてほしい。		
				実績	579	196	361								
				達成度	102%	31%	180%								
			講座実施回数	目標値	30	35	20	25	25	回					
実績値	25	11	16												
達成度	83%	31%	80%												
自己評価	4.5	2.0	4.0			点									
27	総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進	学校教育課	実施校数	目標	53	53	53	53	53	校	各学校で総合的な学習の時間等を活用し、障がい者・児や高齢者の疑似体験などを行った。 （例：【外町小】手話体験【成和小】車いす体験、サウンドテニス体験【湊小・鬼塚小・北波多中】車椅子バスケットボール体験【第一中】妊婦体験【厳木中】認知症サポート教室等）	3.5	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い ①体験学習等の実施に係る時間等の確保に向け、各学校への啓発を行いたい。 コロナ禍で体験活動実施が難しい状況が続いたが、1人1台端末を活用し、リモートで「子育てサロン」を実施できた中学校や盲導犬体験をオンラインで実施した小学校があった。今後もコロナ禍に対応した取組を模索し、体験活動を積極的に実施していき		
				実績	37	13	32								
				達成度	70%	25%	60%								
			自己評価	3.0	2.0	3.5			点						

◆第3期唐津市地域福祉計画 基本目標ごとの達成度状況

基本目標	事業項目ごとの自己評価点								基本目標ごとの自己評価平均点				
	事業No. 1,9,16,20	事業No. 2,10,17,21	事業No. 3,11,18,22	事業No. 4,12,19,23	事業No. 5,13,24	事業No. 6,14,25	事業No. 7,15,26	事業No. 8,27	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基本目標Ⅰ 地域での包括的な支援のために	4.0	4.0	5.0	4.5	4.0	4.0	4.0	2.5	3.6	3.8	4.0		
基本目標Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために	5.0	3.5	3.0	3.0	4.0	4.0	3.0		3.3	3.6	3.6		
基本目標Ⅲ 福祉サービスの向上のために	4.0	3.8	4.0	3.0					3.6	3.7	3.7		
基本目標Ⅳ 参加しやすくするために	3.5	3.0	3.0	2.0	3.0	4.0	4.0	3.5	3.8	2.8	3.3		

